

【『あいさつ』で拓く、爽やかな一日】

私自身も新しい生活に少しずつ慣れてきて、余裕をもって過ごせるようになってきました。朝はできる限り校門に立ち、皆さんとあいさつを交わすようにしています。これからも、7時50分頃から約20分間という短い時間ですが、一日おきに西門と東門に立って皆さんの登校を迎えたいと考えています。

境北中学校の皆さんのあいさつは、全体的にとっても清々しく、毎朝大きな活力をもらっています。中には、しっかりとこちらに視線を合わせ、弾けるような笑顔であいさつを返してくれる生徒もいます。そのような姿に触れるたび、「今日もこの生徒たちのために、素晴らしい一日にしたい」と身が引き締まる思いです。

あいさつは、単なる習慣やマナーではありません。それは「素晴らしい一日のスタートを切るためのスイッチ」であり、「自分と相手の心を繋ぐ大切なバトン」です。全ての生徒が、自ら心を開き、笑顔で言葉を交わし合える——そんな活力にあふれた境北中学校を、皆さんと共に築いていきたいと願っています。



【『あいさつ』の本当の意味を知る】

なぜ、私たちは「あいさつ」を大切にするのでしょうか。そのヒントは漢字の成り立ちに隠されています。

「挨拶」という漢字を紐解いてみましょう。

「挨」という字には…「心を開く、押し出す」という意味があります。

「拶」という字には…「相手に迫る、近づく」という意味があります。

つまり、あいさつとは「自分の心を開き、相手の心に一步近づく」という、積極的な意思表示なのです。

また、私たちが普段何気なく使っている言葉にも、深い相手への「思いやり」が込められています。

「おはようございます（お早うございます）」

「お早いですね。今日も良い一日をお過ごしください」という労いと願いが込められています。

「こんにちは（今日は）」

「今日は、お元気ですか？」と相手の体調や様子を気遣う言葉が省略されたものです。

「ありがとう（有難う）」

「有ることが難しい（めったにない）」、そんなめったにない優しさが嬉しい、という感謝の気持ちを表しています。

中学生になり、大人への階段を上る皆さんには、形だけのあいさつを超えて、その言葉の裏にある「相手を敬う気持ち」を大切にしてほしいと願っています。自分から、笑顔で、相手に届く声で。その一言が、誰かの一日を明るく照らす一步になるはずですよ。

【保護者の皆様へ】

ぜひご家庭でも「あいさつ」に込められた意味について、お子様と話題にしてみてください。家庭という一番小さな社会で交わされる「おはよう」や「ありがとう」の積み重ねが、社会に出た時の大きな力となります。今後とも、本校の教育活動へのご理解とご協力をお願いします。